

道徳学習指導略案

4年3組 33名 指導者 西國原 拓也

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 問題解決的な学習を取り入れ、「深める発問」で対話活動を行うことは、主体的に考え、物事を多面的・多角的に吟味する手立てとして、有効であったか。
- 体験的な学習として役割演技を取り入れることは、道徳的な問題を自分事として捉え、自分の日常生活にも生かす手立てとして、有効であったか。

1 主題名 相手のことを考えて（資料名「キャプテンはぼくだ」〈読み物—学研教育みらい〉）

2 ねらい

自分の立場を守るため、つい相手の過ちを一方向的に非難してしまうことがあることに気付き、自分とは異なる意見や立場を受け止めて、相手への理解を深めて接しようとする心情を育てる。

（B 相互理解・寛容）

3 指導に当たって

(1) 主体的な学びの視点

「見つめる」過程において、「友達と言ひ争ひになってしまったことはないですか。」と尋ね、これまでの経験や実際の事例を取り上げるようにすることで、相手のことをよく理解し、自分と異なる意見も大切にすることは大事だが、それがなかなかできない心の弱さを引き出し、問題意識を高めることができるようにする。また、「振り返る」過程において、この学習で見いだした考えをまとめたり、実生活で生かせる場面を考えたりすることで、自分との関わりで捉え、自己の生き方に結び付けて考えることができるようにする。

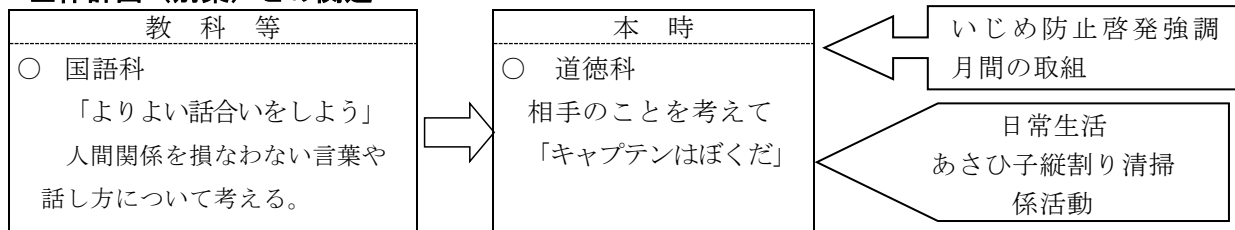
(2) 対話的な学びの視点

「問い直す」過程において、教材を読んだ後、「ここでは何が問題ですか。」と問題を明らかにする発問を投げ掛けることで、子供が道徳的な問題を発見し、主体的に解決しようとする意欲を引き出すようにする。また、お母さんの話を聞いたりようたは、「これからどうしていけばよいのだろう。」と問題解決を促す発問をすることで、具体的に解決する考えを話し合うことができるようにする。その際、「どうしてそうするのか。」「そうすると、二人はどうなるのか。」「同じようなことはなかったか。」などの「深めの発問」を投げ掛け、全体での話し合いを行うことで、出てきた考えを多面的・多角的に吟味することができるようにする。

(3) 深い学びの視点

「問い直す」過程において、主人公の二人になって役割演技をさせ、教師がその場面に介入して尋ねることで、道徳的価値に対する自分の見方や考え方を引き出したり、多様な考え方に気付かせたりすることができるようにする。そうした体験的な学習をすることで、道徳的な問題を自分事として捉え、自分の日常生活にも生かすことができるようにする。

4 全体計画（別業）との関連



5 教材について

本教材は、自分の立場だけで話し、友達と言ひ争ひになるといった話で、日常生活でよくあることが書かれた生活教材である。たけるは、サッカーが上手であるが、自己中心的である。いつも一人でドリブルをして、ゴールを決める。キャプテンのりょうたはその態度を注意するが、言い争ひになる。その後、先生と話し合い、たけるが謝るが、りょうたはその謝る態度に納得しない。母に相談すると、たけるが人一倍努力していることを聞く。そして次の日、りょうたは、たけるのことを理解していなかったことを謝るといった内容である。自分が正しいと思うのでなく、相手のことを理解して接することの大切さを考えるきっかけとなる教材である。

6 本時の展開

[] 子どもの意識 ○教師の手立て ※評価

過程	時間	主な学習活動	教師の手立て
見つめる	5	1 友達と言い争いになった場面について想起する。 [・ 悪いことを注意したら、にらまれた。] [・ 手伝おうとしたら、「しないでいいよ。」と言われた。] [・ ボールをどっちが持っていかで言い争いになった。] 2 本時のめあてを確認する。 [相手と言い争いにならないためにはどのような気持ちが大切だろうか。]	○ 言い争いになる原因は何なのかを尋ねたり、言い争いの場面を提示したりして、子供の経験を想起しやすくし、問題意識を高めるようにする。 ○ 子供の経験を想起させ、自分にも同じことがあったと共感させることで、相手の立場に立って、相手の考えを理解するは大切だが、なかなか難しいという心の弱さを引き出し、共通の問題意識をもつことができるようにする。 ○ めあてを全員で一読することで、全員が確認することができるようにする。
問い直す	3 2	3 教材「キャプテンはぼくだ」を読み話合う。 (1) 資料の中で問題だと思いう場面について話し合う。 [・ 二人が言い争っている場面。] [・ キャプテンがたけるを怒っている場面。] (2) りょうたとたけるの気持ちについて話し合う。 【りょうた】 [・ サッカーはチームですものだ。] [・ 一人プレーはよくない。] 【たける】 [・ ぼくが決めているのに。] [・ 誰も決めることができないのに。] 【りょうた】 [・ キャプテンは、ぼくだ。] [・ 何で分かってくれないの。] 【たける】 [・ そんな言われ方されるの。] [・ 何で分かってくれないの。] (3) お母さんの話を聞いた、りょうたはどうすればよいのかを考える。 [・ 相手のことを考えていなかったなあ。] [・ 自分のことだけ考えていたなあ。] [・ 悪いことしたなあ。] (4) 次の日の二人の気持ちを考える。 【りょうた】 [・ 話してみてよかったなあ。] [・ たけるの気持ちを聞いてよかったなあ。] 【たける】 [・ 試合が楽しみだ。] [・ 相手のことを考えてるって大事だなあ。]	○ 資料一読後、「この話では、何が問題だと思うか。」と発問することで、問題場面を焦点化し、道徳的な問題を発見し、主体的に解決しようとする意欲を高めることができるようにする。 ○ 主人公二人の気持ちを比較して考えることで、自分の体験と関連付けながら相互理解・寛容の意義について気付くことができるようにする。 ○ 「一人でサッカーやりすぎだ。」という場面と「何が悪いっていうんだ。」の場面について、具体的に考えさせ、二人の気持ちに共感できるようにする。 ④ 「お母さんから話を聞いたりょうたは、どうすればよいのか。」と発問し、対話活動を行うことで、相手のことを理解することについて考え、解決する方法を見いだすことができるようにする。 ○ 「どうして、そうするの。」「そうすると、二人はどうなるの。」などの「深める発問」を投げ掛けることで、多面的・多角的に吟味することができるようにする。 ⑤ 仲直りをした二人を役割演技することで、道徳的価値に対する自分の感じ方や考え方を明確にしたり、多様な考え方に気付いたりすることができるようにする。 ※ 振り返る活動における子供の考えを机間指導において次の視点で評価する。 (道徳ノート)
振り返る	7	4 本時の学習の感想を書く。 [・ 相手の考えや意見を理解することが大切だな。] [・ 今まで自分中心の考えが多かったの、相手のことをもっと考えたいな。] [・ ○○さんの考えは、自分が気付かなかったな。]	○ 今日の学習で見いだした考えや道徳的価値について ○ これまでの経験の振り返りと実生活で生かせる場面、新たな問題について ○ 学びが深まった友達の考えや学び方(話し合い)について
あたためる	3	5 教師の話を書く。 [・ 相手のことを受け入れることが大切だな。] [・ 自分のことだけ考えていたらいけない。]	○ 詩を読むことで、本時で学んだことを心にしみ入ることをねらいとし、道徳的実践意欲を高めることができるようにする。

